

## 目次

■ 脱脂粉乳・全脂粉乳情報	横ばいで落ち着く	p. 2-3
■ バター情報	需給逼迫続く、欧州中心に今後も世界的に相場続伸か	p. 3-4
■ ホエイ情報	米国産は相場軟化傾向、欧州産はユーロ高が輸出に影響	p. 5
■ カゼイン情報	カゼイン相場、低調に推移	p. 5-6
■ 乳糖情報	欧州、米国ともに軟調に推移	p. 6
■ チーズ情報	ドイツの 2017 年上半期チーズ輸出数量増	p. 7
	オランダの乳製品小売り価格の上昇	p. 7
	オランダ DOC 社による Uniekaas 社買収	p. 7
	米国 CME 相場	p. 7
■ 国内情報	生乳生産量 11 ヶ月連続で前年割れ、2017 年 9 月以降回復なるか	p. 9
■ アムステルダム駐在員情報	欧州脱脂粉乳介入在庫、ドイツ農業協会 EU 政府に提案	p. 9-10
	FrieslandCampina 社 飲料会社を売却	p. 10
	欧州生乳生産状況	p. 10-11
■ メルボルン駐在員情報	MGC 社 2016/17 年度決算発表	p. 11-13
■ 米国駐在員情報	チーズ製造に UF 膜処理乳の使用が許可に	p. 13
	カナダ産乳製品輸出量の増加について	p. 13
	7 月の主要 23 州生乳生産量	p. 13-14
	7 月の全米生乳生産量	p. 14
	6 月の米国産乳製品の輸出量	p. 14
	6 月の米国産バター、脱脂粉乳、チーズの生産量	p. 15
7 月のチーズとバターの在庫量	p. 15	
■ 主要生産国の現行乳価		p. 15
■ 出典		p. 16

## ■ 脱脂粉乳・全脂粉乳情報

### ■ 横ばいで落ち着く

粉乳は全般に前月と同じ傾向で落ち着きを増している。脱脂粉乳についてはオセアニア産、米国産の価格競争力が同レベルで並んでおり、EUR/USD 為替要因もあるが、次いでEU産となっている。全粉乳は特にEUでの乳脂肪価格高騰を背景にオセアニア産に競争力がある。

#### 欧州

生乳生産量は、季節柄緩やかに減少している。2017年6月の生乳生産量は昨年同月比で1.7%増加となったものの、主要生産国であるドイツやフランスにおいてはそれぞれ0.4%、1.7%と減少した。その一方で、EU中で乳生産量5番手にあたるポーランドの6月生乳生産量は昨年同月比で6.9%もの増加となりドイツ、フランスの減少分を補っている。

脱脂粉乳相場は横ばい、やや弱含みにて推移している。EU産脱脂粉乳の6月輸出量は昨年同月比で97%増となっており、2017年前半期(1~6月)における輸出量においても昨年同時期比で36%増となっている。今年6月の欧州産脱脂粉乳輸出先の中では特にアルジェリアへの輸出量が増えており、昨年同月比で217%増であった。

2017年5月のEU全粉乳製造量は昨年同月比1.5%減だが、EU全粉乳製造国トップ3の1~5月の累計は、オランダ、12.5%、フランス、5.8%、ドイツ、16.8%とそれぞれ数量増、4番手であるデンマークは4.8%減となっている。相場は強含みにて推移。

#### オセアニア

豪州の2017年6月の生乳生産量は昨年同月比で2.2%増。2016/17シーズン(2016年7月~2017年6月)においては安い乳価の影響により酪農家の生産意欲も刺激されず2015/16シーズンと比較し、-6.9%減となった。今シーズンは乳価引き上げへと見直されたことから生産量改善が見込まれる。豪州同様にNZの2017年6月の生乳生産量も好調で昨年同月比で21.3%増となっている。オセアニア産脱脂粉乳相場はやや弱含みにて推移している。豪州の2017年6月の脱脂粉乳生産量は昨年同月比5.2%増となったものの2016/17シーズンを通しての生産量は昨シーズンと比較し、13.2%減となっている。8月15日に行われたGDTの脱脂粉乳の平均価格はUSD1,968/MT(船側渡し価格)、先月7月18日に行われたGDTの平均価格であるUSD2,024/MTと比較すると2.8%値下がりとなった。

オセアニア産全粉乳の相場は横ばい。豪州の2017年6月全粉乳生産量は昨年同月比162.1%増で大幅増であったが、2016/17シーズンを通しての生産量は脱脂粉乳同様減少し、昨シーズン比9.3%マイナスとなった。8月15日に行われたGDTの全粉乳の平均価格はUSD3,143/MT(船側渡し価格)となっており、先月7月18日に行われたGDTの平均価格であるUSD3,114/MTと比較するとほぼ横ばいである0.9%のみの値上がりとなった。

#### 米国

米国では乳生産のピーク時期を過ぎの2017年7月の生乳生産量は前月比で2.2%減となり、昨年同月比としては、1.8%減であった。減少した州の主なところは前月同様に米国西海岸での乳生産地が多く、カリフォルニア州が0.2%減、オレゴン州が3.1%減、ワシントン州で-2.1%減となった。一方の米国南部、南西部は乳用牛数を大幅に増やしたことにより乳生産が好調で、テキサス州が14.8%増、ニューメキシコ州が8.4%増と大幅に乳生産量を伸ばしている。米国の脱脂粉乳相場はほぼ横ばいにて推移している。2017年前半期における脱脂粉乳輸入量は昨年同時期比20%増となった。

#### 今後の見通し

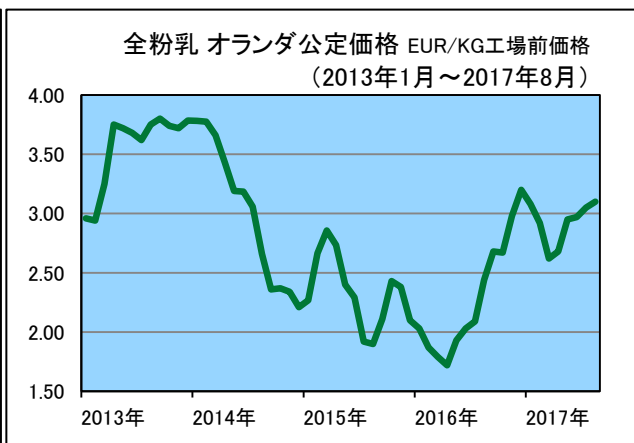
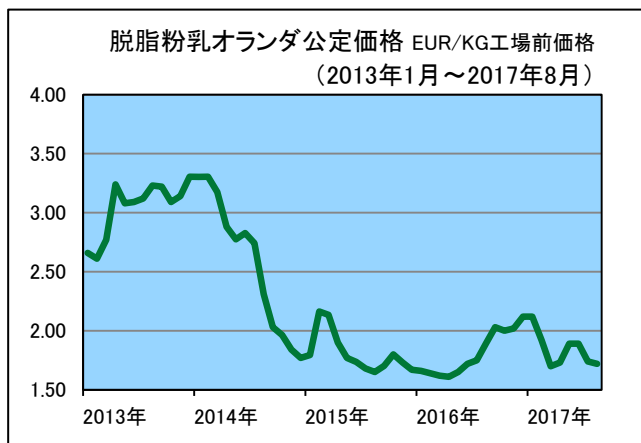
今後の脱脂粉乳相場についてはEUの政府介入在庫も未だ重く、また乳脂肪高騰の影響によりバター製造が優先される事で副産物としての脱脂粉乳も継続的に生産される事となるため、横ばいまたは弱含みが続く予想される。しかしながら中国の2017年7月の脱脂粉乳輸入量は昨年同月比で約2倍へと増加しており、2017年1月~7月の輸入量においても昨年同時期比で25.5%増となっており、この点が相場上昇への懸念点として抑えておく必要がある。

る。

全粉乳相場においも先月同様に横ばいとなっているものの、大口需要者である中国の動きが活発になってきており、2017年7月終了時点での全粉乳輸入量が昨年同時期比6.2%増となっている。またその中国への輸出先としてはNZが全体の95%を占めているため、中国輸入量が増える事によるNZに与える影響は小さくはない。

現在の粉乳取引価格

欧州産脱脂粉乳価格 (ADPI EXTRA GRADE)	:	USD 2,100- 2,450/MT CFR ASIAN PORTS
欧州産全粉乳価格 (ADPI EXTRA GRADE)	:	USD 3,700 - 4,000/MT CFR ASIAN PORTS
オセアニア産脱脂粉乳価格 (ADPI EXTRA GRADE)	:	USD 2,100 - 2,300/MT CFR ASIAN PORTS
オセアニア産全粉乳価格 (ADPI EXTRA GRADE)	:	USD 3,300 - 3,600/MT CFR ASIAN PORTS
米国産脱脂粉乳価格 (ADPI EXTRA GRADE)	:	USD 2,100 - 2,300/MT CFR ASIAN PORTS



<中村>

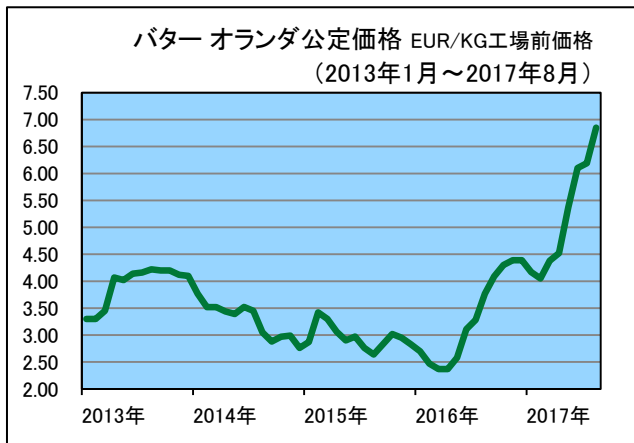
■ バター情報

■ 需給逼迫続く、欧州中心に今後も世界的に相場続伸か

欧州

8月に入り欧州バター相場は再び急上昇しEUR7,000/MTの大台に乗せた。その後も勢い衰えず上昇を続けている。

EU主要28か国における2017年6月時点(累計6か月)の生乳生産量は前年比0.6%減であるが、バター製造量は前年比6.0%減と大幅に落ち込んでいる。一方で、チーズ生産量は1.2%増と増加しており、各社チーズ生産を優先していることが窺える。チーズ生産が優先されている状況のまま、最需要期であるクリスマスシーズンを迎えることになれば、更なる価格上昇と供給タイトな状況に直面し、オファー入手すら難しくなることが予想される。現状、バター相場が下がる要因も特段見当たらない。需要者は必要な数量に関しては早めの確保に動くと考えるのが自然であろう。



### オセアニア

バター生産量は引き続き前年比同月比、大幅に減少しており、オファー入手が非常に困難な状況が続いている。一部の乳業メーカーは新シーズン(2017年7月～2018年6月)に入ってから、予想支払い乳価の引き上げを発表、これにより酪農家の生産意欲は向上しているが、昨シーズンの離農や乳牛処分の影響は大きく、生乳生産量が早期回復は難しいと思われる。

8月のGDTオークションは、1回目のAMF平均価格がUSD6,199/MT FAS(船側渡し)と前回(2017年7月18日)比4.4%減、バター平均価格はUSD5,747/MT FASで前回比4.3%減、2回目の平均価格はAMFがUSD6,199/MT FASで前回比1.4%減、バターはUSD5,735/MT FASで0.2%減、であった。

### 米国

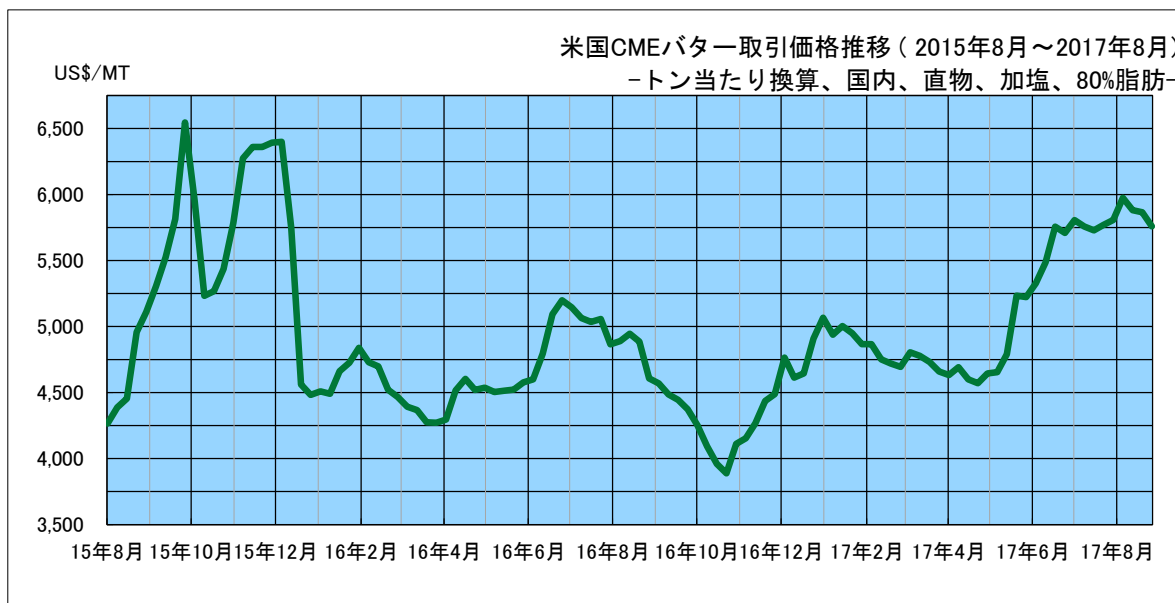
米国バター相場は7月末時点からやや上昇した。特に欧州のバター価格が急上昇したことにより、米国産バターには相対的に価格競争力が生じているが、国内の需要は引き続き旺盛であり、特に小売りや外食産業向けが伸びている。同じくオファー入手が非常に困難な状況である。

6月のバター生産量は前年同月比4.8%減の約6万4千トン、バター在庫量は前年同月比7.6%減の約14万1千トン、どちらも減少した。過去5年平均と比較すると在庫量は依然として高水準ではあるものの、歴史的な高水準を保ってきたバター在庫も徐々に減少し、これからクリスマスの最需要期を迎えるため、米国産バター相場も上昇することが予想される。

#### 2017年8月のバター取引価格

(換算レート EUR/USD1.19)

欧州産バター価格	:	USD8,600～USD8,900/MT CFR ASIAN PORTS
NZ産バター価格	:	USD6,400～USD6,700/MT CFR ASIAN PORTS
豪州産バター価格	:	USD6,300～USD6,700/MT CFR ASIAN PORTS
米国産バター(無塩 82%脂肪)価格	:	USD6,000～USD6,400/MT CFR ASIAN PORTS



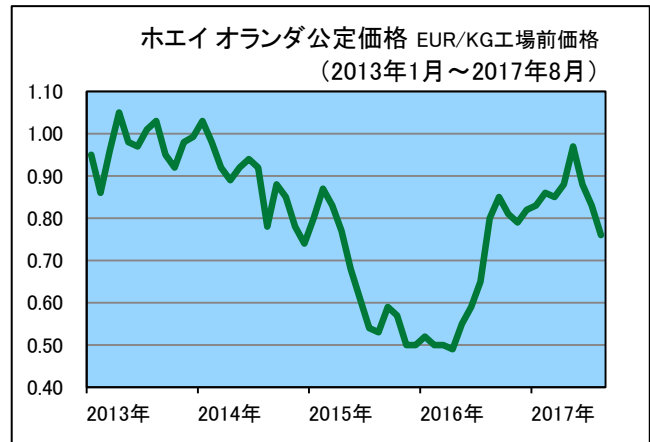
<吉田>

## ■ ホエイ情報

### ■ 米国産は相場軟化傾向、欧州産はユーロ高が輸出に影響

米国産ホエイパウダー相場は、軟化傾向にある。米国産ホエイパウダーの6月生産量は前年対比10.3%増の3万9,000トン、2017年1月から6月の累計生産量も前年対比3.5%増の22万7,800トンであった。

ホエイパウダーの6月輸出量は前年同月比5%増の1万7,700トンで、2017年1月から6月の累計輸出量も10万トンと前年対比19%増で推移している。チーズ生産は順調に推移しており、それに伴いホエイ生産量も増加しているが、北米域内の需要が思わしくなく、全体として在庫はやや重たいレベルとなっている。



欧州産ホエイパウダー相場は高値が続いていたが、落ち着きを見せ始めている。順調なチーズ生産に伴ってホエイパウダーの生産量も伸びてきており需要に対して十分な在庫がある状況。しかしながら、一方でユーロ高のせいで、EU域外への輸出への影響も見られ始めている。

米国産 WPC-34 の相場は弱含みにて推移している。一部育児粉乳向け等の規格の厳しい製品は高値で取り引きされているが Q1、Q2 で既に価格の安い脱脂粉乳に置換え済みの需要者があり、WPC-34 の手当てを控えている状況。中には期末の在庫水準を適正に保つために既契約の船積み延期をサプライヤーに要求している最終ユーザーも見られる。NASS(米国農務省全農業統計局)によると、2017年6月のWPC(蛋白含有量25～49.9%)の生産量は6,600トン、前月対比3.1%減、前年対比4.1%減。2017年1月～6月のWPC(蛋白含有量25～49.9%)の累計生産量は4万1,300トンで、前年対比1%減。2017年6月末時点でのWPC(蛋白含有量25～49.9%)の在庫量は1万900トン、前月対比3.5%減、前年対比5.4%減となっているが、弱含み基調の脱脂粉乳相場が続いており、直近での急激な相場の上昇はないものと予想する。

<白井>

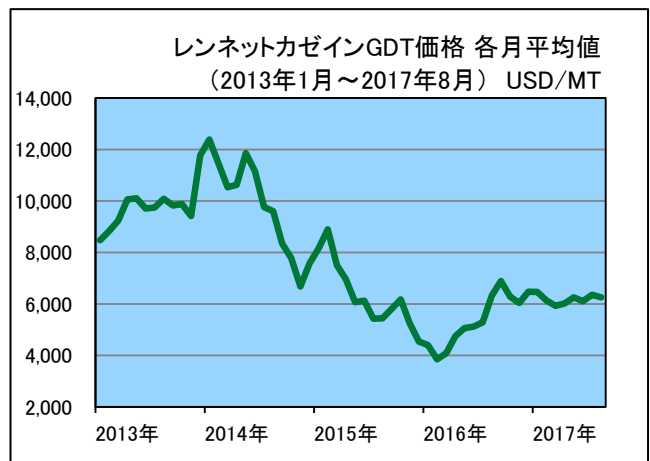
## ■ カゼイン情報

### ■ カゼイン相場、低調に推移

カゼイン相場は直近大きな変動は見られず、低調に推移している。

直近におけるスポットでの取引はほとんど行われておらず、各ユーザーは今後生産シーズンに入る NZ の先々の供給動向を見守っている状況。主要産地である NZ 及び欧州の供給状況については、NZ はシーズンオフであり、欧州は乳量が落ち込む時期であることから、カゼインの生産量は例年通り低水準である。そのため、需給ともに既に視点は来シーズンに向いている。

NZ の新シーズンについては、直近の雨による影響が若干あるものの、乳量自体は伸びていくと見込まれており、NZ のカゼイン生産も順調に進むものとみられ



レンネットカゼイン GDT 過去3ヵ月の落札価格

入札日	カゼイン(単位:MT)
2017年6月6日	USD 6,849
2017年6月20日	USD 6,104
2017年7月4日	USD 6,113
2017年7月18日	USD 6,358
2017年8月1日	USD 6,122
2017年8月15日	USD 6,255

ている。一方、その他カゼイン生産地域については、欧州が全体的に昨年対比低水準の乳量推移、また、アルゼンチンも昨年の洪水の影響により乳生産量減のため、同国で乳量が潤沢に確保できるかは不透明。今後の価格については、脱脂粉乳の相場低迷を背景に、カゼイン価格にも下落圧力がかかり、低調に推移すると思われる。

<作田>

■ 乳糖情報

■ 欧州、米国ともに軟調に推移

欧州

欧州産乳糖は、弱含みで推移している。チーズは輸出向けの需要が強く、相場は高値で推移している事から生産量も好調を維持しており、原料ホエイ、乳糖生産は安定している。需要面では、EU域内外の育児粉乳用途は好調を維持している一方で、脱脂粉乳蛋白調整用途及び製菓用途は落ち着きを見せている。第3四半期まで続いていたタイト感は徐々に薄れてきており、バランスが取れた状態に近づいてきている。

今後については、第4四半期にかけて秋冬の製菓用途需要が伸びてくる事が予想されるが、米国産乳糖相場が第2四半期をピークに第3四半期から軟調に動き始めている事から、合わせて弱含みに推移するものと思われる。

米国からの乳糖輸出入(2017年1月~6月)

1. 中国	30,967トン
2. 日本	22,482トン
3. メキシコ	20,259トン
4. ニュージーランド	17,822トン
5. インドネシア	9,474トン
6. インド	7,452トン
7. シンガポール	8,586トン
輸出入合計	173,133トン

同月比3.2%増と好調を維持している。需要面では、メキシコ向けの育児粉乳用途が伸びているものの、オセアニアの脱脂粉乳蛋白調整用途の引き合いは弱く、全体的には落ち着いている。需要者は、今後相場が下がる事を期待し、市場の動向を見ながら契約を進めている。

第4四半期も好調な生乳生産に支えられて、チーズ、原料ホエイ、乳糖生産も順調に推移する事が予想される。9月から年末にかけて秋冬の製菓需要が伸長する事が予想されるが、米国内の乳糖在庫は積み上がっているため、供給が需要を上回った状態が続き、相場は軟調に推移するものと思われる。

国別乳糖輸入量:7月時点での累計(単位/トン)

	2016年	2017年	(%)
オランダ	3,845	4,412	15%
フランス	918	1,104	20%
ドイツ	6,807	9,947	46%
カナダ	1,725	1,988	15%
米国	26,485	26,090	-1.5%
豪州	0	0	-
ニュージーランド	1,947	1,894	-3%
その他	679	1,217	79%
合計	42,406	46,652	10%

米国

米国産乳糖も弱含みで推移している。乳牛の穀物飼料価格は引き続き下落傾向にあるため、生乳生産量は好調を維持しており、6月は昨年同月比1.7%増加した。チーズ生産量は国内外の需要に支えられて、昨年同月比3.2%と順調に伸びている。WPC34の生産量が同月比4%減少しているのに対し、高タンパクなWPC80、WPIの生産は増加しており、乳糖生産量も

米国の乳糖生産量と在庫量(2017年6月)

乳糖生産量	43,862トン	前年比3.2%増
月末在庫	61,734トン	前年比3.7%増

<真野>

## ■ チーズ情報

### ■ ドイツの2017年上半期チーズ輸出数量増

ドイツの上半期の乳製品の輸出量は概ね前年同期比で増加となり、チーズは1%増であった。現在のドイツの主要輸出先である韓国向けで前年比2倍の9,500トンまで増加した影響で、EU域外向けのチーズ輸出量は22%増となった。チリ向け昨年比2倍以上の6,300トンであった。スイス向けは17%増の8,800トンで、米国向けは20%増の6,200トンであった。日本向けも33%増で9,000トン程度であった模様。

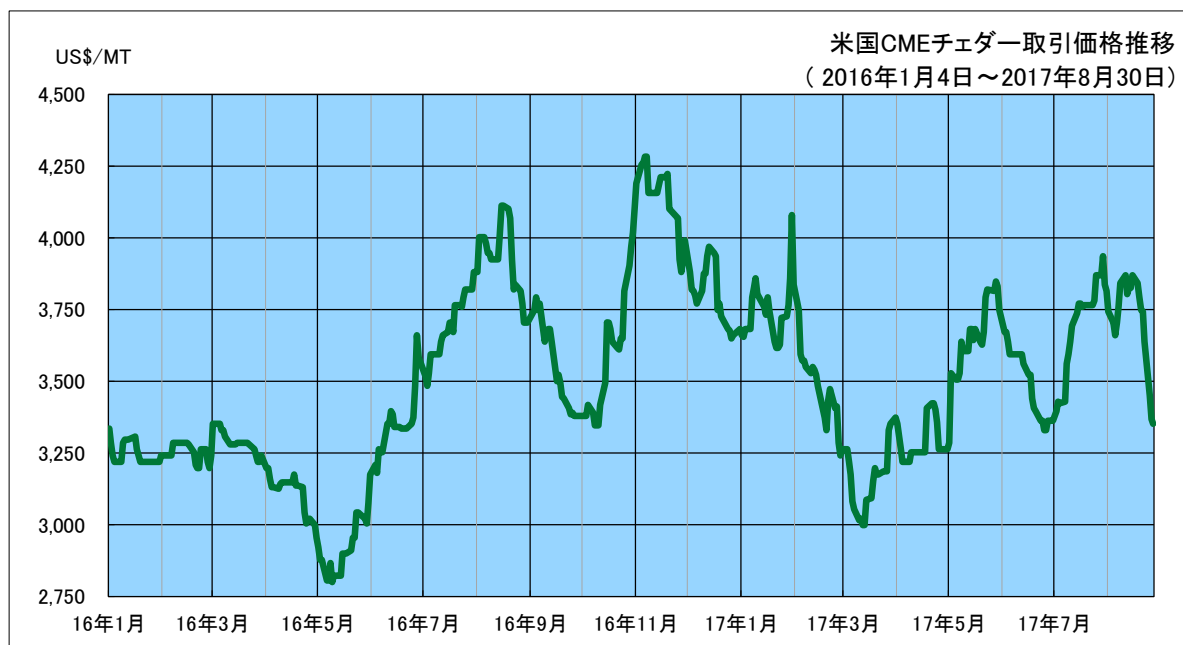
### ■ オランダの乳製品小売り価格の上昇

オランダの7月の乳製品の小売価格は前年同月比で平均で約10%上昇した模様。同価格は過去10年で最も高い水準となっている。バターと牛乳の価格が最も大幅で約35%であるが、チーズやクワルクも7%上昇した模様。同国の消費者の支出(約350億ユーロ)の11%が食費であり、その14%を乳製品に消費している。さらにその乳製品消費額中の50%近くがチーズで占められているとのことである。

### ■ オランダDOC社によるUniekaas社買収

ドイツDMKの子会社であるDOC社がUniekaas社を買収することで最終調整に入っている。同買収はDOC社がUniekaas社のブランドおよび全ての部門(製造、熟成、パッケージング)を含む。

### ■ 米国CME(シカゴ)相場



2017年8月のCMEスポット相場は8月1日にUSD3,936/MTから開始となった。価格は一時期堅調に推移したものの、その後軟調に推移し8月30日時点ではUSD3,352/MTとなっている。

<齊藤>

■ 国内情報

■ 生乳生産量11ヵ月連続で前年割れ、2017年9月以降回復なるか

生乳生産

農林水産省が発表した2017年7月の全国生乳生産量は61万180トンで前年同月比3.3%減となった。地域別では北海道が33万1,403トンで前年同月比3.4%減、都府県は27万8,777トンで前年同月比3.2%の大幅減となっている。

生乳需給は例年8月下旬～9月中旬が1年の中で最も逼迫する。暑熱の影響で生乳生産が落ち込む一方、学校給食向け牛乳の供給再開で需要が一気に跳ね上がるためだ。2017年7月は全国的に猛暑の日が続き、生乳生産量が急減、同年8月下旬以降の生乳最需要期の需給に危機感が広がった。しかしながら、8月以降、天候不順で牛乳消費が減退する一方で生乳生産が堅調なことから道外移出生乳にキャンセルが相次ぎ、逼迫していた需給は落ち着きを取り戻した。ただ、9月の飲用最需要期に向けて酪農乳業関係者は警戒感を崩していない。

バター

農林水産省が発表した2017年7月のバター生産量は4,307トンで前年同月比20.9%減、在庫量2万7,180トンで前年同月比0.3%増となった。バター生産量は11ヵ月連続で前年同月比マイナスとなっている。在庫量は夏の不需要期のため微量ながら前年比増加している。

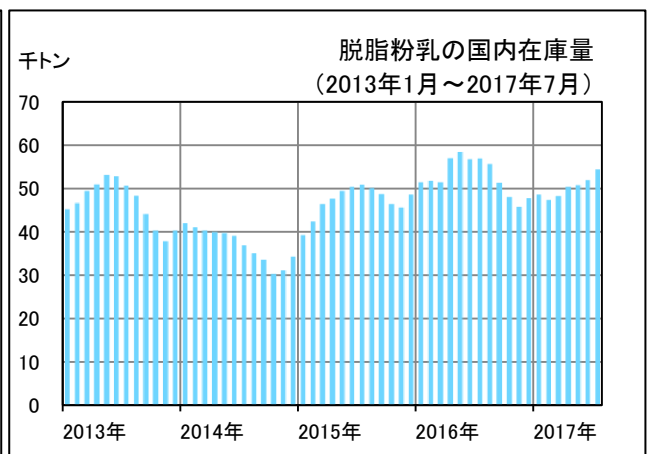
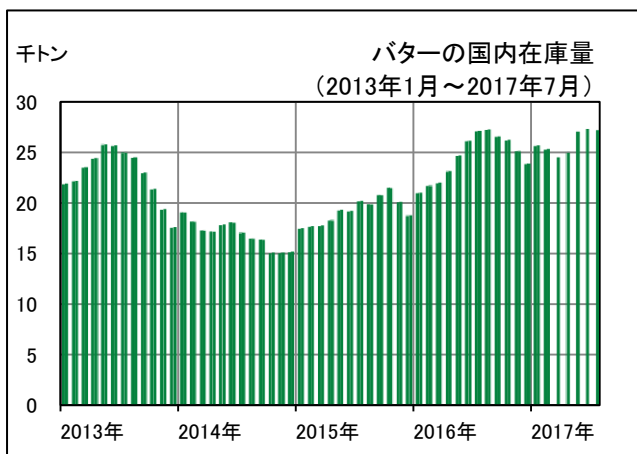
農畜産業振興機構の需給予測によると、2017年9月のバター生産量は前年同月比15.7%減の3,000トン、出回り量は前年同月比9.3%減の4,500トン、月末在庫量は前年同月比4.4%増の2万9,100トンの見込み。農畜産業振興機構は2017年8月2日、同年8月～11月にかけて計8,000トンの輸入入札(SBS方式)実施を発表、同年8月24日に実施された入札では落札数量172.4トン、競争率0.09倍となっており依然として輸入バターへの需要は低い状況が続いている。

<バター入札日程>

入札日	入札方式	売渡期限	入札数量
2017年8月24日	SBS	2018年1月31日	2,000トン
2017年9月14日	SBS	2018年2月28日	2,000トン
2017年10月19日	SBS	2018年3月30日	2,000トン
2017年11月16日	SBS	2018年5月31日	2,000トン

脱脂粉乳

農林水産省が発表した2017年7月の脱脂粉乳生産量は8,605トンで前年同月比14.2%減、在庫量は5万4,323トンで前年同月比4.6%減となった。今後も国産脱脂粉乳生産量の減少が危惧されるが、2017年6月～7月実施の入札において落札された輸入品17,000トンが10月以降に順次入ってくるため当面の需給は安定していく見込み。変動はありながらも、発酵乳等の生産量は依然として高水準で推移しており、各社、在庫の積み増しを前広に進める必要が





あることから今年10月以降の実施が予定されている4,000トンの入札に需要が多く集まる可能性は高い。

農畜産業振興機構の需給予測によると、2017年9月の脱脂粉乳生産量は6,200トンで前年同月比15.2%減、出回り量は11,800トンで前年同月比1.9%増、月末在庫量は51,300トンで前年同月比3.2%減の見込み。

## 生乳生産量

(単位:千トン)

	生乳生産量	用途別内訳			
		牛乳等向け	乳製品向け		その他
			内業務用		
2017年7月	610	347	25	260	4.1
前年同月比	96.7%	100.4%	102.8%	92.1%	96.9%

## 2017年度、バター需給予想

(単位:トン)

	生産量	前年比	消費量	前年比	在庫量	前年比	月数
第1四半期	16,762	91.4%	15,614	99.2%	27,329	104.5%	4.6
第2四半期	12,407	86.3%	15,056	108.1%	27,180	102.2%	4.6
第3四半期	12,500	90.1%	25,280	102.8%	23,000	96.3%	3.9
第4四半期	17,600	103.6%	16,600	101.2%	29,200	119.3%	5.0
合計	59,269	93.2%	72,550	102.7%	29,200	119.3%	5.0

※在庫量はカレントアクセスによる輸入バター(民間)を含む

## 2017年度、脱脂粉乳需給予想

(単位:トン)

	生産量	前年比	消費量	前年比	在庫量	前年比	月数
第1四半期	32,644	97.2%	36,643	110.1%	53,700	94.6%	4.3
第2四半期	24,105	88.6%	29,982	81.2%	54,323	105.8%	4.4
第3四半期	26,800	89.9%	42,523	119.7%	46,600	97.8%	3.7
第4四半期	34,100	103.7%	40,000	113.2%	50,700	105.2%	4.3
合計	117,649	95.3%	149,148	105.7%	50,700	105.2%	4.3

※在庫量はカレントアクセスによる輸入脱脂粉乳(民間)を含む

&lt;高野&gt;

## ■ アムステルダム駐在員情報

### ■ 欧州脱脂粉乳介入在庫、ドイツ農業協会 EU政府に提案

欧州委員会は、脱脂粉乳の介入在庫売却を通じて、最も恵まれない人々を救済する欧州救済基金(European Aid Fund)を財政面から支援することができる。これにより、EU加盟国各国は自国の最貧困層の支援を要請することができる。ドイツ農業協会(DBV)は、ドイツ連邦政府及び欧州委員会に対ししっかりタイミングを考えてこの支援をドイツで実施するよう要請した。

この2年間でEU政府の脱脂粉乳介入在庫は35万トン以上に膨れ上がっている。DBV協会長であるKarsten

Schmal氏は今回の同協会の決定を歓迎し、『欧州委員会は、農産物を有効利用しながら援助すること、早急に現況を改善したいはずだ。このことは我々酪農家にとって非常に重要で、まさに今がそれを実施するタイミングだ。』としている。

結果として、大量の脱脂粉乳介入在庫をより早く減らせるだけでなく、救済基金の役割を高めることができることになる。ここ数か月の間に欧州委員会は介入在庫の大量販売を試みたものの、現行の入札による方法ではうまくいっていない。

『介入在庫は現在の生乳価格に沿って減らしていかなければならない』と Schmal 会長は強調している。

現在、例えばドイツで先物取引を使って向う12か月の生乳価格をヘッジしようとするれば EUR0.39/kg 以上で可能で、これは過去10年間の平均生乳価格を上回っている。

介入在庫放出による相場下落圧力を緩和するために、過去に EU は脱脂粉乳の販売をうまく行っていた。欧州委員会が現行の入札によるやり方で十分に介入在庫を減らせないのであれば、別のやり方を実施するという選択肢もあることを DBV は指摘している。

## FrieslandCampina社 飲料会社を売却

『乳製品事業への集中』を謳っているオランダ最大の酪農協である FrieslandCampina 社は、ジュース・フルーツドリンクを中心とした同社飲料メーカー Riedel B.V.社(創業:1879年、従業員数:200名、売上:1億2500万ユーロ=約160億円)の売却につき、オランダの投資会社である Standard Investment 社と合意に至った。最終的な移行手続きは今年度末になる見込み。

Riedel 社は常温・チルド流通のジュース・フルーツドリンク分野におけるオランダの業界大手で、『消費者が選ぶ欠かすことのできない飲料ブランド TOP10』には同社ブランドが4ブランド選ばれている。しかし、ここ10年間でフルーツジュースの需要が25%減り、同社事業は大きな影響を受けていた。

尚、最終合意に至るまでには政府による承認・労働者の合意といった手続きが必要となる。財務データについての開示は未だなされていない。

## 欧州生乳生産状況

EU28か国の生乳生産量は改善に向かっている。

2016年6月以来、前年対比マイナスであった EU28か国合計の生乳生産量は2017年3月以降前年とほぼ同レベルで推移している。

生乳生産量の回復はポーランド・イタリア・アイルランドによるところが大きい。生乳生産量で欧州5位のポーランドでは6.9%、同6・7位のイタリア・アイルランドにおいても6.1%増となっている。

もう一方の主要生乳生産国であるドイツ・フランス・オランダにおける生乳生産量は改善には向かっているものの、未だ前年対比マイナスで推移している。ドイツ・フランスについては生乳価格の低迷のため酪農家が生計を維持するために乳牛を手放したことで、また銀行による貸出が厳しくなっていることから、簡単に飼育頭数を増やすことができない状況にある。オランダについてはリン排出規制に伴い本年初めには数パーセントの減少になると見られていたが、生産効率の悪い乳牛を処理する一方、農耕飼料・給餌方法を改善することで一頭あたりの生産効率を高めたことから、微減に伴っている。英国は、本年4月以降プラスに転じている。

生乳価格が改善し、採算を上回っていることから欧州全体としては今後年末に向かっ生乳生産量は増加に向かっっていくと思われる。しかし、上記状況から大幅な改善には至らず、EUは2017年欧州28か国生乳生産量は前年対比0.5%増に留まると見ている。

出典：Eurostat

単位：1,000トン		Jan	Feb	Mar	Apr	May	Jun	Jan-Jun
EU 28	2016年	12,691.21	12,263.27	13,474.28	13,524.67	14,184.86	13,178.75	79,317.04
	2017年	12,425.51	11,708.30	13,500.24	13,619.19	14,189.58	N/A	65,442.82
	前年対比	-2.1%	-4.5%	0.2%	0.7%	0.0%		1~5月合計
Germany	2016年	2,761.56	2,632.66	2,824.40	2,778.90	2,885.64	2,715.75	16,598.91
	2017年	2,648.83	2,447.83	2,758.71	2,691.10	2,814.64	2,706.10	16,067.21
	前年対比	-4.1%	-7.0%	-2.3%	-3.2%	-2.5%	-0.4%	-3.2%
France	2016年	2,238.34	2,098.95	2,225.95	2,234.50	2,284.81	2,044.58	13,127.13
	2017年	2,123.64	1,961.42	2,209.33	2,221.02	2,223.01	2,018.33	12,756.75
	前年対比	-5.1%	-6.6%	-0.7%	-0.6%	-2.7%	-1.3%	-2.8%
United Kingdom	2016年	1,261.56	1,181.77	1,297.54	1,288.40	1,360.00	1,243.40	7,632.67
	2017年	1,219.30	1,121.00	1,286.80	1,300.20	1,367.10	1,269.30	7,563.70
	前年対比	-3.3%	-5.1%	-0.8%	0.9%	0.5%	2.1%	-0.9%
Netherlands	2016年	1,214.70	1,161.30	1,239.90	1,218.60	1,263.10	1,199.70	7,297.30
	2017年	1,227.30	1,120.60	1,248.70	1,213.60	1,255.80	1,194.40	7,260.40
	前年対比	1.0%	-3.5%	0.7%	-0.4%	-0.6%	-0.4%	-0.5%
Poland	2016年	917.25	874.89	949.23	942.93	1,012.68	951.41	5,648.39
	2017年	949.27	888.40	998.90	981.51	1,043.99	1,017.11	5,879.18
	前年対比	3.5%	1.5%	5.2%	4.1%	3.1%	6.9%	4.1%
Italy	2016年	924.62	910.19	974.57	990.19	994.47	892.13	5,686.17
	2017年	921.75	912.28	1,000.00	1,006.81	1,003.42	946.14	5,790.40
	前年対比	-0.3%	0.2%	2.6%	1.7%	0.9%	6.1%	1.8%
Ireland	2016年	151.67	295.63	612.24	783.36	957.22	878.50	3,678.62
	2017年	153.10	281.00	639.32	891.99	1,023.55	932.26	3,921.22
	前年対比	0.9%	-4.9%	4.4%	13.9%	6.9%	6.1%	6.6%

※ 赤字「EU28 2017年 Jan-Jun」は2017年1~5月の合計となります。

<阿部>

## ■ メルボルン駐在員情報

### ■ MGC社 2016/17年度決算発表

8月22日、MGC社の16/17シーズン(2016年7月~2017年6月)決算報告が発表された。決算内容は非常に厳しいものでMGC社の深刻な財政状況が改めて確認された。売上高は25億豪ドル(1豪ドル=約86円)で昨年対比10.3%減少し、3億7,080万豪ドルの赤字を計上した。負債は4億4,500万豪ドルで昨年対比7.5%減少となっている。NPATという臨時的な一時的損益を除いた税引後利益は、3,470万豪ドルと開示しており、酪農家から回収すべきMSSPローンを放棄した影響が非常に大きかったと予想される。

集乳量は270万トンとなり、前年度の約350万トンから約22%の減少となった。MGC社の乳価低迷と信用失墜によって契約酪農家が競合他社へ流れており、1年間で約80万トンの生乳を失った事になる。またMGC社は今シーズンの集乳量を約200万トンと予想しており、既報の230万トンから更に下方修正を行った事になる。想定よりも酪農家離れが進行しており、競合他社に生乳を奪われることを阻止できないと判断していると思われる。年間集乳量200万トンとなると、豪州二番手の乳業会社 Fonterra 社と同規模となり、“豪州最大の乳業会社”の称号が維持出来なくなる可能性が出てくる。Fonterra社はヴィクトリア(VIC)州北部の Stanhope 工場の新チーズ工場を正式に稼働させており、

年間約45,000トンのチーズを生産する予定となっている。同社は今シーズンその分の生乳を追加で確保する必要があり、酪農家への乳価提示は豪州中で最も高いレベルとなっており、集乳量確保に非常に積極的である。MGC社の今年度の乳価は、AUD5.20/kg 乳固形になると発表しており、現時点で Fonterra、WCB、Bega の AUD5.50/kg 乳固形よりも低いレベルとなっている。競合他社はこの先更に乳価を上げる可能性もあり、Fonterra 社に限っては該当の酪農家へ AUD0.40/kg の追加プレミアムを払う事も発表している。MGC 社は大きく遅れをとっており酪農家が競合他社へ去っていく事を阻止するには乳価を上げる必要がある事は十分理解しているものの、これ以上乳価を上げる事が出来ないほど深刻な財政状況にある。

既報の通り MGC 社は3工場(Rochester 工場、Kiewa 工場、Edith Creek 工場)を閉鎖する事を発表している。これらの工場は当初売りには出されないとされていたものの、Kiewa 工場に関しては牛乳ブランドの“Kiewa Country”とその製造設備を地元のファミリー(同族経営)企業に売却した事を発表した。タスマニアの Edith Creek 工場も UHT 牛乳製造設備売却の噂があり、工場建屋も売りに出すように動いていることが報道されている。また Rochester 工場の買収に興味を持っている乳業会社があるものの現時点では交渉がまとまっていない事も当地で一部報道されている。

先日 MGC 社が契約したフィナンシャルアドバイザーのドイツ銀行(Deutsche Bank)が主導で MGC 社再建に向けて動いており、各乳業会社へ MGC 社の買収、もしくは工場単位での買収に興味がないか打診している事も一部報道されている。MGC 社の株主は酪農家であり、万が一 MGC 社が買収されるような流れになっても、株主の90%以上の承認がないと合意に至らない為、実現は容易ではないと思われる。しかしながら、もし身売りが MGC 社株主の賛同を得られるとすれば、相手は純粋な豪州乳業会社に限られてくると思われる。

同社の現状を考えると再建の為に利益率の高い製品に注力し、利益率の低いもの、また会社にとって不必要なものは大きく切り捨てて会社のスリム化を図るしか残された道はないと思われる。工場売却も含めて再建に向けて動きが出てくると思われるので、引き続き MGC 社の動向から日々目が離せない。

## 豪州品目別生産状況

単位:トン

	2017年6月の生乳生産(前年同月比)	2016年7月～累計(前年同時期比)
バター	3,864 (-22.8%)	65,338 (-18.1%)
バターオイル	559 (-38.4%)	11,328 (-28.2%)
CHEDDAR	12,031 (-3.1%)	170,414 (+0.3%)
その他チーズ	11,826 (+8.3%)	147,362 (-5.2%)
脱脂粉乳	13,356 (+5.2%)	222,109 (-13.2%)
全粉乳	4,078 (+162.1%)	59,982 (-9.3%)
ホエイ、WPC	3,878 (+16.0%)	49,937 (+11.8%)

## 豪州生乳生産量

単位:百万リットル

	2017年6月の生乳生産(前年同月比)	2016年7月～累計(前年同時期比)
NSW	85.4 (+1.1%)	1,120.7 (-4.9%)
Victoria	418.8 (+3.1%)	5,773.2 (-8.2%)
Queensland	32.5 (-0.8%)	418.1 (+1.0%)
South Australia	34.9 (-7.6%)	485.6 (-8.0%)
Western Australia	31.1 (-2.6%)	379.7 (-1.9%)
Tasmania	43.0 (+10.2%)	835.4 (-5.4%)
<b>Australia</b>	<b>645.7 (+2.2%)</b>	<b>9,012.7 (-6.9%)</b>

ビクトリア州の地域別生乳生産量

単位:百万リットル

	2017年6月の生乳生産(前年同月比)	2016年7月～累計(前年同時期比)
東部	118.8 (+3.9%)	1,976.9 (-4.0%)
北部	134.6 (+0.1%)	1,746.5 (-16.5%)
西部	165.5 (+5.1%)	2,049.9 (-4.2%)
ビクトリア州全体	418.8 (+3.1%)	5,773.2 (-8.2%)

&lt;松本&gt;

## ■ 米国駐在員情報

### ■ チーズ製造にUF膜処理乳の使用が許可に

米国の乳業メーカーは、チーズ製造へUF膜処理乳使用を20年近く希望していたが、この度、アメリカ食品医薬品局(FDA)により認可された。UF膜処理乳とは、膜処理することによってある程度の水分と乳糖分を除去したものである。チーズメーカーは膜処理されたたんぱく分の高い乳を原料に使用することにより輸送効率と歩留まりを上げる事が出来るようになる。米国の酪農業界は、長い間この決定を待ち望んでおり、実際ADPI(American Dairy Products Institute)は1999年にFDAに対し、チーズの製造におけるUF処理膜牛乳に使用は乳の定義に含まれるという請願を行った。2005年10月にFDAはチーズの製造において、UF膜処理牛乳の使用を認めるための法令改正案を発表。それから実に12年近く経ってから、FDAはチーズの製造におけるUF膜処理乳及びUF膜処理脱脂乳の使用とその表示に関し、許可を与えると発表した。この決定においてFDAは2005年の法令改正案の前文にある‘各種チーズにおいて法令に定めるところの規格を満たす限り、暫定的にチーズ製造にUF膜処理牛乳の使用を認める’事を再確認している。IDFA(International Dairy Foods Association)は、この決定によってチーズ製造者がUF膜処理乳をより広く使用することが可能となり、原材料表示の簡素化にも繋がると述べている。また、このFDAの決定は米国内のUF膜処理牛乳の製造者にとっても良い知らせとなった。カナダの乳業政策が変わったことが原因でこれら製造者は同国向けの市場を失ってしまったからである。FDAは、輸出環境の変化で米国内のUF膜処理乳の供給過多発生とそれに伴う価格下落に対応するため今回の決定に至ったことを認めている。

### ■ カナダ産乳製品輸出量の増加について

カナダの新乳価クラス7は狙い通り機能している模様。今年の初めに、カナダは国内のMPC、脱脂粉乳、全粉乳の価格をオセアニア産、米国産、EU産の最低水準と同等の価格帯にするためクラス7乳価の設定を行った。この設定により国際市場における価格競争力を得たカナダ産脱脂粉乳は輸出量を増やしている。

6月のカナダ産脱脂粉乳の輸出量は約10,986トンと記録的な数値となり、メキシコ向けがカナダ全体輸出量の20%以上を占めるに至った。メキシコは米国産NFDM(タンパク調整無し脱脂粉乳)の主要市場でもある。2017年1月から6月のカナダ産脱脂粉乳の累計輸出量は、新乳価クラス7導入前の前年同期と比べ3.8倍となった。カナダ産脱脂粉乳は国際市場において既に余剰状態となっている供給量をさらに溢れ返らせる可能性も秘めている。カナダは国産バター製造を増やすため今年の生乳生産割当を5%増やした。カナダのクリーム輸入量は依然として歴史的にかなりの高水準にあると言えるが、それでも2016年第4四半期と2017年第1四半期の水準を大きく下回っている。これは、カナダが生乳生産量増により自国内のクリームとバターの需給安定化に成功していることを意味し、その結果としてより多くの脱脂粉乳が国外に投げ売りされることが予想される。

### ■ 7月の主要23州生乳生産量

米国農務省(USDA)の発表によると7月の主要23州の生乳生産量は7,808,800トンで前年同月比1.9%増となった。先月発表の6月の生乳生産量は前年同月比1.7%増の7,672,600トンへ上方修正された。

主要23州における7月の一頭当たりの平均搾乳量は約894キロで前年同月を約9.5キロ上回り、2003年に統計データを取り始めて以来7月単月の数字としては過去最高となった。

主要23州における7月の平均乳牛頭数は873万頭と発表され、前年同月比72千頭増、前月比では1千頭の減少となった。

## 7月の全米生乳生産量

2017年7月の全米生乳生産量は8,262,800トンで前年同期比1.8%増となった。また、全米の一頭当たりの平均搾乳量は約880キロで前年同月を約9キロ上回った。7月の平均乳牛頭数は940.3万頭と発表され、前年同月比74千頭増、前月比では1千頭の減少となった。

2017年7月主要州別生乳生産量(前年同月比)

カリフォルニア州	1,530,888トン	-0.2%	(-3,178トン)
ウィスコンシン州	1,174,952トン	+0.7%	(+8,626トン)
ニューヨーク州	576,580トン	-0.1%	(-454トン)
アイダホ州	587,930トン	-0.2%	(-908トン)
テキサス州	465,350トン	+14.8%	(+59,928トン)
ミシガン州	435,386トン	+2.9%	(+12,258トン)
ペンシルバニア州	412,232トン	-0.4%	(-1,816トン)
ミネソタ州	381,360トン	+3.1%	(+11,350トン)
ニューメキシコ州	320,524トン	+8.4%	(+24,970トン)
ワシントン州	254,240トン	-2.1%	(-5,448トン)

## 6月の米国産乳製品の輸出量

米国産バターの貿易収支は2015年1月から2017年6月まで黒字となっており、6月の輸出量は前年同月比178%増の3,713トンで、輸入量は26%減の3,287トンとなった。

6月のカナダへの米国産バター輸出量は全体の64%を占め、前年同月比509%増となった。3番目に輸出量の多いデンマーク向けは194トンとなったが、2016年デンマークは米国から1.3トンしか輸入していなかった。

6月の米国産チーズの輸出量は、前年同月比32%増の30,541トンとなったが、前月比では11%減となった。今年の1月から6月までの累計輸出量は前年同期比24%増となっている。

6月のフレッシュチーズの輸出量は、割安な価格とドル安を背景に10,036トンとなり、2015年5月以来最も高水準となった。6月の米国産チェダーの輸出量は、前年同月比28.5%増の約3,632トンとなり、このうち日本向けの割合は56%を占めている。米国産チェダーの2017年1月から6月までの累計輸出量は、前年同期を上回っている。

6月のNDM/脱脂粉乳(脱脂粉乳)の輸出量は前年同月比8%増の45,778トンとなり、過去5年間における6月単月の平均である47,579トンには及ばなかった。

メキシコの脱脂粉乳の輸入はカナダ、EUからが増加している一方、米国産も増加しており、6月の米国からの輸入量は前年の16,219トンより40.5%増の22,792トンとなった。フィリピン、中国向けの輸出量も同様に増加したが、インドネシア向けの輸出量は減少した。インドネシア及びパキスタン向けの減少数量は、メキシコ向けの増加分に相当する。

2017年上半期のホエイの輸出量は堅調で毎月前年同月を上回る数字となっている。6月の米国産ホエイパウダーの輸出量は前月比4.2%増、前年同月比5.3%増の17,756トンとなった。2017年1月から6月の累計輸出量は、前年同期を20%近く上回っている。このうち最大の中国向けは全体の58%を占めており、前年同月比でも48%増となっている。

## 6月の米国産バター、脱脂粉乳、チーズの生産量

6月の米国産バターの生産量は前年同月比4.8%減の約64,014トンとなり、過去5年間の単月平均である約64,695トンを僅かに下回った。乳脂肪の増加分の多くは季節要因によりバターよりもアイスクリーム製造等に向けられている。

6月の米国産チーズの生産量は前月比2.5%減、前年同月比3.2%増の約467,620トンとなり、1月から6月までの累計では前年同期比2.7%増となった。6月のチェダー生産量は前年同月比3.8%増の約130,752トンとなり、今年に入って最も低い前年対比での伸び率となった。

6月の米国産モザレラの生産量は前年対比3.1%増の約158,900トンとなった。6月のチェダー現物取引価格が軟調であったことから、製造者は硬質イタリアンタイプチーズの製造に傾注し、6月の生産量は前年同月比9.8%増の約16,616トンとなった。

6月の米国産NDM/脱脂粉乳の合計生産量は引き続き昨年水準を上回っており、前年対比1.2%増の約92,434トンとなった。6月末時点のNDMの在庫量は前年同月比29%増と大幅に増加し約135,065トンとなった。

## 7月のチーズとバターの在庫量

7月31日付け米国産バターの在庫量は前月比0.8%減、前年同月比7.5%減の139,695トンとなり、昨年在庫水準との差が広がってきている。7月のバターの在庫量は昨年に比べ減少しているものの、2014年及び2015年の7月よりは高い水準となっており、過去5年間の平均である118,040トンを上回っている。

7月31日付け米国産チーズの在庫量は前月比4.4%増、前年同月比7.8%(約45,400トン)増の624,250トンとなり、前月比、前年同月比ともに在庫量は増加し、チーズ全体の在庫量は積み増しされている。

アメリカンタイプチーズの在庫量は前月比3.4%(12,439トン)増、前年同月比8.8%(30,872トン)増の380,270トンとなった。その他のチーズ(主にイタリアンタイプチーズ)の在庫量は前月比6.1%増、前年同月比6.3%増の231,585トンとなった。6月のチーズ在庫量の減少は変則的だったため、USDAは年間レポートの数値を修正した。

2015年、2016年のチーズの在庫量のピークはそれぞれ8月と7月となり、今年も同様であると予想されている。

<佐藤>

## 主要生産国の現行乳価

	円換算乳価※1	直近の乳価	
日本	¥96.80/㍓	¥93.89/kg※2	(2017年6月)
ドイツ	¥46.43/㍓	EUR34.38/100kg	(2017年6月)
オランダ	¥50.31/㍓	EUR37.25/100kg	(2017年5月)
アイルランド	¥44.07/㍓	EUR32.63/100kg	(2017年7月)
米国	¥41.75/㍓	USD16.70/100ポンド (100ポンド=45.3592g)	(2017年5月)
豪州	¥37.00/㍓	AUD5.50/kg MS(乳固形あたり)	(2017/18年度)
NZ	¥41.76/㍓	NZD6.75/kg MS(乳固形あたり)	(2017/18年度)

※1 生乳1リットルあたりに換算した概算価格。生乳比重は1.031で計算。  
為替レート:EUR=¥131.00 / USD=¥110.00 / AUD=87.00 / NZD=80.00

※2 総合乳価。用途別に異なる乳価の総加重平均の価格で、実際に酪農家に支払われた乳代。消費税抜き。

<出典>

日本 : 農畜産業振興機構  
EU : European Commission  
米国 : CLAL  
豪州 : Murray Goulburn HP  
NZ : Fonterra HP

お問い合わせ先:  
株式会社ラクト・ジャパン  
webmaster@lacto-japan.com

出典:  
AGRA EUROPE 各誌  
Dairy Dairy Report  
Dairy Industry Newsletter  
農畜産業振興機構“畜産の情報”  
AMS Dairy Market News  
日刊酪農乳業速報  
Rice Dairy  
NZ Herald  
Stuff.co.nz  
食品産業網  
Weeklytimes  
USDEC Export Trade Data  
Global Trade Information Service  
USDA's Dairy Market News  
Australian Financial Review  
食品産業サイト  
経済日報  
東方ネット  
長三角乳業

#### ディスクレーマー

1. 株式会社ラクト・ジャパン(以下「当社」といいます。)は、「乳製品情報」(以下「当資料」といいます。)に記載されている情報については相応の注意を払っておりますが、その内容の完全性、正確性、適切性等について、いかなる保証も行うものではありません。そのため、当社は、当資料に記載されている情報・資料を利用するなどの、利用者の行為に関連して生じたあらゆる損害等について、理由の如何に関わらず、一切責任を負いません。また、当記事に記載されている情報には、第三者が提供しているものが含まれていますが、当社は、その内容の正確性等については一切の責任を負いかねますので、予めご了承ください。
2. 当社は、事前に予告することなく、当記事の内容を変更等することがありますが、それに関連して生じたあらゆる損害等について、理由の如何に関わらず、一切責任を負いません。
3. 当社の許可なく当該情報の一部または全体を転載、二次使用すること、ならびに当該お客様以外に開示することは固くお断りいたします。